

品川歴史館リニューアル 基本計画

2020 年 3 月

品川区

目次

1. 品川歴史館の現状

(1) 館の沿革とリニューアル基本計画策定の経緯	1
(2) 品川区の特徴	2
(3) 館の現状と課題	4
(4) 区民・来館者ニーズ調査結果	9

2. リニューアルの方向性

(1) 基本方針	11
(2) ターゲット	11
(3) コンセプト	12

3. 施設リニューアル計画

(1) 施設リニューアルの考え方	13
(2) 諸室計画	14
(3) 既存建物の課題と施設改修方針	20

4. 展示リニューアル計画

(1) 展示リニューアルの考え方	23
(2) 展示の全体構成	25
(3) 各展示の展開	26

5. ユニバーサルデザイン計画

(1) 基本方針	39
(2) 現在の品川歴史館の状況	39
(3) 特に配慮すべき事項	40

6. 活動の充実化

(1) 基本方針	42
(2) ボランティアの活性化	42
(3) 関連団体や施設とのネットワーク強化	42

7. リニューアル後の活発な利活用のための取り組み

- (1) 広報・情報発信 44
- (2) 諸室の活用 45
- (3) 周辺施設等との連携 46
- (4) ショップの充実 48

8. 整備スケジュール

..... 49

9. 基本計画策定の経緯

- (1) 品川歴史館リニューアル基本計画策定支援アドバイザー会議
委員名簿 50
- (2) アドバイザー会議開催経過 51

1. 品川歴史館の現状

(1) 館の沿革とリニューアル基本計画策定の経緯

品川区の歴史は、国指定史跡「大森貝塚」や歴史館所在地に存在する「大井鹿島遺跡」が示すように、古くは原始・古代にさかのぼることができる。中世においては太平洋海運の隆盛により港湾都市として発展し、江戸時代になるとその発展を背景に品川宿が設置され、東海道の第一番目の宿場として繁栄した。今なお東海道沿いに残る古い社寺や町並みからは、往時を偲ぶことができる。そして明治時代になると、物流が便利であったことから近代的な工場が数多く設立され、日本の近代化において先駆的な役割を果たすとともに、それを原動力として品川の街は大いに発展していった。

このように、品川区には誇るべき歴史的資産が数多く存在するが、品川歴史館が設立される以前は、急激な社会構造の変化に伴い、永く保存されていた文化財や歴史資料等が散逸しかねないという状況にあった。こうした中であって、先人の残した文化遺産を継承し、新しい文化を創造することは、時代の要請であり、行政の責務であった。そのような状況で、昭和 42 年（1967）に品川区制 20 周年記念事業として区史編纂が始まった。その際、編纂に関わる調査で発見された資料等の保存・活用ができる資料館建設についての要望が編纂委員より出され、昭和 51 年（1976）には「郷土資料館建設のための請願」が議会に提出され、採択された。その後、昭和 53 年（1978）に品川区長期計画に資料館構想が組み込まれた。こうした経過から昭和 60 年（1985）に、郷土資料の保存と活用、区民文化の向上を目的として、品川歴史館が設立された。

その後、設備面では、平成 19 年（2007）に改修を実施したが、開館から 34 年が経過し、建築や設備の老朽化や構造上の問題が表面化している。また、展示面では、平成 19 年（2007）のリニューアル以降は常設展示の全体的な更新を行っておらず、リピーターを呼び込みにくい状況にある。

こうしたことから、大規模改修を前提とした、ハード・ソフト両面からのリニューアルを進めるための基本方針を定める「品川歴史館リニューアル基本計画」を策定することとなり、令和元年度(2019)に「品川歴史館リニューアル基本計画策定支援アドバイザー会議」を設置し、検討を行った。

(2) 品川区の特徴

品川歴史館リニューアル基本計画の策定にあたっては、品川区ならではの特徴を踏まえ、それらを活かした品川区ならではの活動をめざす。

① 品川区の位置・地形

品川区は、東京都の南東部に位置し、北は港区、渋谷区、西は目黒区、南は大田区、臨海部の東は江東区に隣接している。

また、区内は大きく分けて、品川地区、大崎地区、大井地区、荏原地区、八潮地区の5つに分かれている。

地形は、東京都の約 1/3 を占める武蔵野台地の東南部の一部と、その東側に位置する低地および埋立地からなっている。目黒川をはさんで、芝白金台（高輪台）と荏原目黒台に二分され、さらに立会川によって、一部が目黒台と荏原台に分かれている。低地は目黒川に沿った大崎や五反田、海岸に近い品川や大井あたりに広がっている。



② 交通・産業の拠点として栄えてきた歴史

品川区は、東京湾に面した臨海部と山の手に連なる台地からなり、古くから交通、交易の拠点として栄えてきた。考古学発祥の地として有名な大森貝塚など、歴史に名を残す史跡も数多く存在する。江戸時代には東海道第一番目の宿としてにぎわい、明治時代に入ってから、京浜工業地帯の一部として発展してきた。

そして現在、羽田空港の国際化や、品川駅への新幹線の停車はもとより、リニア中央新幹線の乗り入れ、ベンチャー・スタートアップ企業が集積する五反田バレーの発展など、交通、産業の拠点としての位置づけを強めている。

③ 次代を担う子どもたちのための特色ある義務教育

品川区では、平成 11 年（1999）、品川区の教育改革の基本方針を示す「プラン 21」が策定され、学校選択制や小中一貫教育、「英語科」や「市民科」の実施など、特色ある制度が導入されている。現在は、これまでの教育改革の成果を踏まえ、新たな品川教育を創生する新しい教育改革方針「品川教育ルネサンス-For The Next Generation-」を実施している。

さらに、全校を品川コミュニティ・スクールに指定し、地域の人々の協力のもと、学校教育の充実を図っている。

④ 活発・多様な区民活動

区内の各地域においては、多様な区民活動が活発に展開されている。地域コミュニティの重要な担い手である町会・自治会は、古くから地域課題の解決のために多くの地域住民が参加し、熱心な活動を続けている。そのほか、文化・スポーツ・生涯学習、子育て・教育、福祉・健康、環境保全、まちづくり、国際交流などの各分野で様々な団体が活動している。

さらに、企業の社会貢献活動を推進するための「しながわ CSR 推進協議会」や区内の大学との政策連携を図る「しながわ大学連携推進協議会」などを設置し、企業や大学などの多様な主体と区が協働してまちづくりを推進している。

(3) 館の現状と課題

① 施設

【建築・設備】

現 状

- ・開館後 34 年が経過し、この間、空調改修以外の大規模改修を行っていない。

課 題

- ・内壁にひび割れやカビによる変色が生じたり、災害時の瓦屋根の危険性が想定されるなど、老朽化や構造上の問題が表面化している。
- ・空調設備の故障による温湿度管理の不具合が生じ、設備の補修のために臨時休館を検討するなど、日々の運営に支障が出ている。
- ・庭園への出入口に段差があるなど、ユニバーサルデザイン対応（身体障害者、高齢者など）に一部課題がある。



あるべき姿

- ・品川区にかかわる考古、歴史、民俗、芸術等の資料を収集、保管、展示し、区内外からの多くの来館者に親しまれる施設として、ふさわしい設備を備える。

【諸室構成】

現 状

- ・収蔵庫（地下・2 階）に資料が入りきらず、各部屋に未整理のままの資料を置いている。
- ・閲覧室、資料準備室、マイクロ室、映写室、写真室などの各室は名称どおりの用途ではなく、ほぼ倉庫としての利用となっている。
- ・茶室「松滴庵」を含めた庭園は、静かな佇まいと美しい眺めを有し、歴史館の特徴となっているが、茶室は安全上の理由で常時公開ができていない。

課 題

- ・収蔵庫でない場所に置かれた収蔵資料は汚損・散逸の可能性がある、調査・展示に十分活用できていない。
- ・各室は未整理資料や物品の倉庫としての用途に限定され、有効活用できていない。
- ・書院は一般に貸し出しているが、稼働率は高くない。茶室「松滴庵」は年間 3 回の公開時しか内部を見学できず、来館者の要望に応えられていない。



あるべき姿

- ・ 倉庫を拡張するほか、既存の収蔵庫の構造や棚を見直し、館全体の収容力を向上させる。資料の整理・目録化を進め、調査や展示に積極的に活用する。
- ・ 限られたスペースを機能ごとに整理するとともに、展示や交流など多目的に活用する。
- ・ 茶室「松滴庵」、書院といった文化を感じられる施設を、文化や芸能等の活動に有効活用する。

② 展示

【常設展示】

現 状

- ・ 原始・古代から近現代までの品川の通史を2室構成で紹介している。
[展示室(1): 原始・古代から近世の品川
展示室(2): 近現代の品川、コーナー展示]
2階で、モース博士と大森貝塚を紹介している。
- ・ 平成19年(2007)の常設展示のリニューアル後は、全体的な展示更新を行っていない。
- ・ 東海道品川宿の宿並模型など固定的な展示物が多い。

課 題

- ・ 展示室(2)の近現代の展示は、特別展示の開催時は撤去され、観覧できないほか、展示替えにかかる運営の負荷が生じている。
- ・ 展示の可変性、更新性が高くないため、豊富な資料を十分に活用できていない。展示更新によるリピーターの呼び込みが難しい状況にある。
- ・ 資料が豊富で研究が進んでいる品川地区に展示内容が偏っている。



あるべき姿

- ・ 通史を途切れることなく常に公開できる常設展示室を備える。
- ・ 資料をより活用できるよう、可変性、更新性が高い展示方法を採用し、定期的に展示の更新を行う。
- ・ 来館者が主体的に学び、繰り返し親しむことができる体験型の展示を備える。
- ・ 区内の5地区それぞれについて、歴史と特徴を紹介する展示を計画する。

【特別展示・企画展示】

現 状

- ・特別展示・企画展示のための専用スペースがないため、近現代の常設展示を行っている展示室（2）で特別展示・企画展示を行っている。

課 題

- ・特別展示開催時に常設展示を毎回撤去する必要があるため、展示替えの労力や休館期間も必要になっている。



あるべき姿

- ・企画展示・特別展示のための企画展示室を備える。

③ 事業活動

【収集保存】

現 状

- ・資料寄贈の受け入れを継続的に行っている。

課 題

- ・収蔵スペースに限りがある中で、資料寄贈の申入れに対応する際の基準がないため、可否の判断基準となる収集基準の設定が必要になっている。



あるべき姿

- ・品川区の歴史を継承するうえで必要な資料を収集・受入するための資料収集基準を備え、資料の管理を体系的に行う。

【調査研究】

現 状

- ・特別展示・企画展示の開催、特別展示の図録発行、紀要の発行などにより調査研究の成果を公表している。

課 題

- ・研究内容や成果が一般来館者からは見えにくい。
- ・学校教育と連携した組織的な体制の構築が必要である。



あるべき姿

- ・品川の歴史に興味を持ってもらえるよう、デジタル媒体を含む多様な手法で調査研究の成果を発信する。
- ・調査研究の結果を、子どもたちを含めた幅広い来館者・区民に発信することで、地域への理解を深め、品川への誇りと愛着を育む機会を設ける。

【教育普及】

現 状

- ・年間 10 回程度の講座やイベントを実施している。

<平成 31/令和元年度実施内容>

- ・親子歴史講座 「古墳時代ってどんな時代？－古墳と勾玉をつくってみよう－」（7 月 28 日、8 月 4 日、のべ受講者 63 名）
- ・古文書入門講座
「初級編 戸越地域の史料を読む」（6 月 13 日～7 月 4 日、のべ受講者 154 名）
「中級編 品川の中世文書を読む」（1 月 9 日～1 月 30 日、のべ受講者 129 名）
- ・品川区史 2014 関連講座 「大崎－目黒川流域の歴史空間－」「広がる品川の臨海部－埋め立て地の変遷と八潮地域－」（6 月 29 日、12 月 15 日、のべ受講者 99 名）

課 題

- ・より活発な講座やイベント開催に対する要望が多い。



あるべき姿

- ・多様な層が参加できる講座やイベントを品川ならではのテーマで開催する。

④ 区民連携、周辺施設との連携

現 状

- ・展示解説ボランティアが活動している（登録人数：17 名）。
- ・大崎高校のペーパージオラマ部などとの協業による展示の実績がある。
- ・大森貝塚遺跡庭園は徒歩 5 分の距離にあるが、連携した事業展開は少ない。

課 題

- ・ボランティアの控室がなく、活動の拠点となる空間が十分でない。
- ・区民や来館者との交流を図るスペースがない。
- ・大森貝塚遺跡庭園など、周辺の施設等との連携が求められている。



あるべき姿

- ・ボランティア、区民、来館者と協働した事業展開を行う。
- ・活発な区民活動の拠点として歴史館を利用できるように整備する。
- ・大森貝塚遺跡庭園等の周辺施設を活かし、ここならではのプログラムやイベントを実施する。

⑤ 来館者数

現 状

- ・来館者数は1年に15,000人程度で、区外からの来館者が多い。
- ・初めての来館者が多い。

課 題

- ・リピーターが少ない。
- ・学校利用が限られている（徒歩圏内の学校のみ）。
- ・外国人の来館者があまり多くない。



あるべき姿

- ・展示見学以外にも多様な交流の場としてリピーターが訪れる場になる。
- ・多くの学校が利用できるように条件を整える。
- ・外国人観光客を日本・東京の玄関口として迎える観光拠点となる。

(4) 区民・来館者ニーズ調査結果

基本計画の策定にあたり、区民や区内外からの来館者・関係者にアンケート調査やヒアリングを行い、品川歴史館の現在の利用状況や、リニューアルにあたっての要望等の聞き取りを行った。主な意見は以下の通り（詳細については「資料編」を参照）。

① 来館者アンケート（来館時に配布・回収）

- ・「区外」からの利用が71%と多く、また、「初めて来館した」と回答した人が71%を占める。
- ・来館理由は、「展示観覧」が46%で最も多く、次いで「大森貝塚とあわせて」が21%で多くなっている。
→区民の利用促進を図るとともに、観光・集客施設として大森貝塚と連携した活動が求められる。
- ・展示への評価は、「とても良い」が35%、「良い」が50%となっており、合わせると85%が「良い」と回答している。
→展示への評価は高いがリピート利用が少ないという状況があるため、特別展・企画展の充実や展示更新、イベントの充実などが求められる。

② 区民アンケート

（電子アンケート、区政モニターアンケート、イベント出展時のアンケート）

- ・品川歴史館をよりよくするために必要なこととして、いずれの調査でも「展示充実・リニューアル」および「特別展・企画展の充実」が上位を占めている。また、「イベント・講座の開催」についての要望も多い。
- ・子どもたちが品川に愛着をもつために必要な活動としては、「歴史・文化の学習機会」がいずれの調査でも最も多く、品川歴史館が担う役割が期待されている。

③ 学校教員聞き取り調査

- ・展示は、近世までは充実しているが、近現代が手薄に感じる。
- ・子どもたちの生活区域や学校周辺の展示があると良い。
- ・教科書や副読本の内容と連携していると利用しやすい。区の建物や資料についての写真資料集やデータベースがあると利用しやすい。
- ・大森貝塚遺跡庭園の教材などがあると、より深い体験になるのではないか。

④ 解説ボランティアワークショップ

【展示の良い点・改善点】

- ・貝塚の剥ぎ取り標本は本物を近くで見られてよい。品川宿の展示もおもしろい。
- ・展示・遺跡・庭園が一体となって展示空間の存在感がある。
- ・近世以外の展示が弱い印象がある。近代以降は、品川らしさを強調し、移り変わりを分かりやすく紹介してほしい。
- ・品川地区にかたよりすぎている。大崎・大井・荏原・八潮を含め、区内全域を取り上げることで、近代の展示の充実につながるのではないか。
- ・2階のモースコーナーの展示の魅力が伝わりにくい。

【館全体の改善点】

- ・施設全体の動線がわかりにくい。
- ・諸室の有効活用が必要である。休憩スペースが不足している。
- ・講座などを増やしてほしい。
- ・小中学生を対象とした解説や史跡めぐりの開催をしてほしい。
- ・バスの立ち寄りなどアクセスの向上を図ってほしい。
- ・学校や地元との連携強化や、研究調査へのボランティアの参加等ができるとうい。

2. リニューアルの方向性

(1) 基本方針

第1章に述べた現状の課題を踏まえ、基本方針を下記のように設定する。

① 豊富な資料と品川の特徴を活かした品川の魅力の発信

豊富な資料を柔軟に活用しながら、先人たちの歩みをいきいきと伝え、品川の魅力を多面的に紹介する。

② 現在とのつながりを重視した新たな展示・交流空間の創造

歴史を過去のものとして途切れさせず、現在とのつながりの視点を重視しながら紹介する。また、品川区にまつわる最新情報も積極的に発信する。

③ 施設の特徴や活動実績を活かしたオリジナル体験の提供

書院や茶室、庭園や大森貝塚遺跡庭園等の周辺施設を活かし、実績のあるボランティアの協力も得ながら、ここならではの体験やイベントを積極的に行う。

④ 活発な交流や連携を育む拠点づくり

来館者の興味や目的に応じて、展示見学以外にも多様な過ごし方や交流ができる場として整備し、リピート利用につなげる。

(2) ターゲット

これまでの入館者数の推移も踏まえ、主要なターゲットを下記のように設定する。

① 区内の子どもたち

品川区の未来を担う子どもたちの地域学習の拠点として、学校団体の利用促進や学習支援に力を入れ、品川が好きな子どもたちを育むことをめざす。

② 区民

展示見学はもとより、講座・イベントへの参加、貸室利用など、多様な場面で日常的に繰り返し利用してもらい、地域への誇りや愛着の醸成をめざす。

③ 国内外からの観光客

日本、東京の玄関口である品川区の魅力を広く知ってもらうPR拠点として、品川区の歴史や今を発信し、親しんでもらうことをめざす。

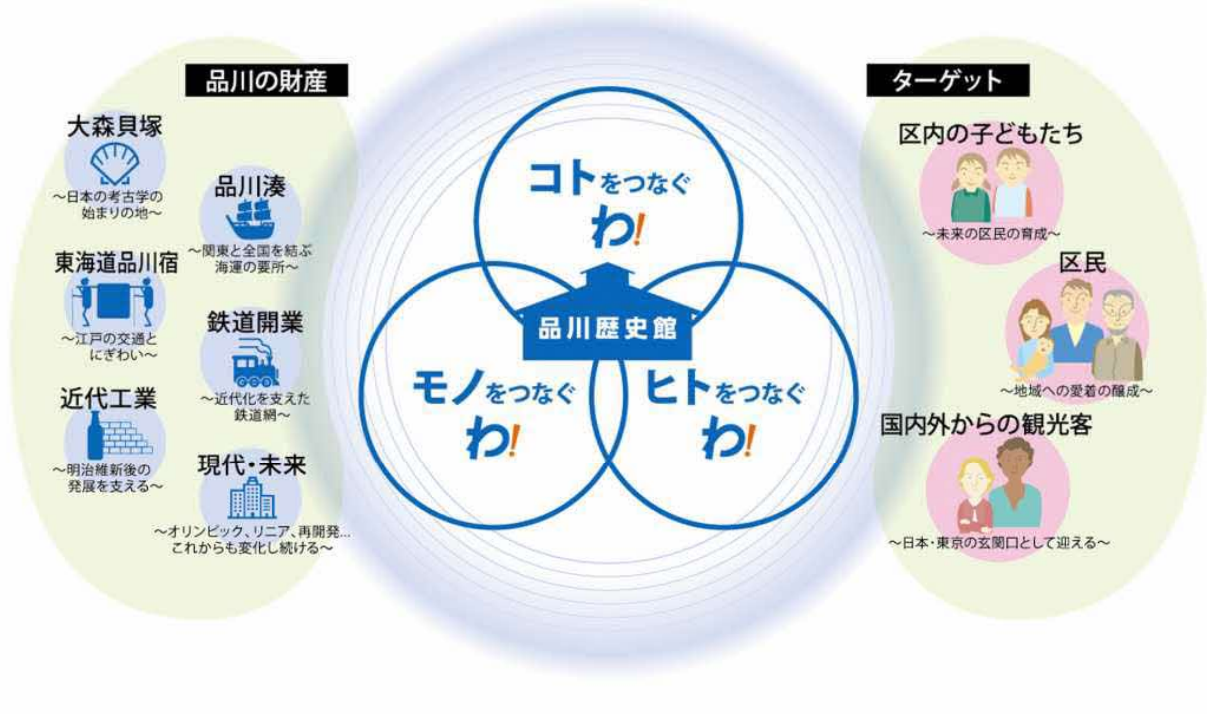
(3) コンセプト

品川歴史館を中心に、文化財などモノをつなぐ“わ”、たくさんのヒトをつなぐ“わ”、体験や活動などコトをつなぐ“わ”が広がり、品川区の歴史を特徴づけるたくさんの財産と、子どもたち、区民、そして観光客をつないで、新たな交流を生み出す拠点を創造する。

区民や子どもたちが、歴史を身近に感じて、気軽に遊びに来たり、いきいきと活動できる場になり、それが観光客にも魅力として届き、品川区全体に活動を広げることで、「品川ライブミュージアム化」をめざす。

品川の歴史を学び、今をシェアし、“新たな歴史”を区民の手で刻んで、 未来につなぐ中心拠点へ

品川歴史館を中心に、モノ、ヒト、コトの3つの“わ”が広がり、
品川の財産と子どもたち・区民・観光客をつなぎ、新たな交流を生み出す



品川ライブミュージアム化！

区民や子どもたちが歴史を自分につながる身近なものにとらえ、いきいきと主体的に活動できる場へ。
観光客にも品川の魅力が届き、活動エリア・担い手が拡大し、ミュージアム活動が品川区全体へ！

3. 施設リニューアル計画

(1) 施設リニューアルの考え方

- ① **無料の交流エリアを明確にし、気軽に立ち寄りやすく、地域とつながる拠点を整備**
 - ・施設全体の有料エリアと無料エリアが明確にわかる施設構成とし、無料エリアは、より気軽に立ち寄れる空間とする。
 - ・エントランスやロビーは、季節や展覧会などに応じて雰囲気を変えながら来館者を出迎える、明るく開放的な空間とし、情報発信やイベント開催、交流の拠点として整備する。
- ② **来館者が利用できるスペースを拡充し、多様な場面で活用できる場をめざす**
 - ・現在は非公開の諸室を公開したり、図書資料室を常時開放するなど、来館者のためのスペースを増やし、日常的に利用しやすい環境を整える。
 - ・講堂や書院、茶室は、より積極的に活用できるよう方針を検討する。
- ③ **豊富な資料を適切に保存し、積極的に公開・活用**
 - ・収蔵方法の見直しや効率化により、既存の収蔵庫の収容能力を強化する。
 - ・さらに、倉庫機能の集約や新設、収蔵スペースの拡張についても検討し、より多くの資料を効率的・効果的に収蔵・公開できるようにする。
- ④ **一つの場を複数の目的で可変的に活用できるよう工夫し、限られた空間を有効活用**
 - ・展示室を可変的な構成にするとともに、展示室以外のスペースにも資料の展示コーナーを設けるなど、館内における展示機能を追加する。
 - ・共用スペースは、休憩のほか情報提供やミニイベントの開催など、多目的に活用できるように計画する。
 - ・当初の目的と異なる使い方をしている諸室については、必要に応じて機能を整理・集約し、活用しやすい方策を検討する。
- ⑤ **ユニバーサルデザインに対応した施設へリニューアル**
 - ・誰もが安心して利用できるよう、ハード・ソフト両面からユニバーサルデザインのあり方を検討する。

(通路幅、照明、分かりやすい案内表示、だれでもトイレ、多言語対応、庭園へのアクセス等)

(2) 諸室計画

館全体を効率的に活用し、モノ・ヒト・コトの活発な交流が生まれるよう、各階の機能を整理し、諸室のリニューアル方針を掲げる。

1階 学びと交流のフロア

※網かけ部分は特に充実させる機能

室名	現在の室名 (変更有のみ)	概要・与条件など
エントランス 「しながわINDEX」	風除室	・明るく入りやすい空間で、展示や区内のイベント案内やまち歩き案内を行い、来館者を出迎えるとともに、区内の周遊へ送り出す場とする。
受付		・受付方法を変更することで有料/無料ゾーンの区分を明確化し、無料エリアのみの利用も活性化する。(券売機と展示室入口のチケットゲートの導入を検討)
ミュージアム ショップ		・受付とあわせて整備し、機能性・利便性を高める。
常設展示室	展示室(1)	・展示更新が容易な展示設備を設ける。 ・資料保存および展示観覧に望ましい温湿度管理空調と照明設備を備える。
企画展示室	展示室(2)	・多様な展示資料に対応できる展示設備を設ける。 ・資料保存および展示観覧に望ましい温湿度管理空調と照明設備を備える。
書院 (文化展示)		・貸室や文化活動などの利用に必要な機能を備える。 ・非貸出時には、ジオラマや甲冑など和室の雰囲気を活かした展示を行う。
活動展示 「ライブ・ラボ」	小講堂	・自由に活動できる、作業スペースや机を備える。 ・休憩スペースとして利用できる、飲料水やテーブル・椅子を備える。
展示準備室		・展示準備作業を行う。
荷解室		・資料の搬出入や荷解き作業を行う。
工作室・補修室		・資料整理などの作業スペースに用いる。
事務室・研究室	事務室 応接室 職員休憩室	・職員の執務スペース、応接スペース、ロッカーを備える。 ・全体を一室にし、必要な際はパーティションで内部を区切る仕様とすることで、フレキシブルにレイアウト変更ができるようにする。
ロビー		・荷物の搬出入や庭園への出入りに支障のないようにする。 ・休憩用のベンチやミニイベント用のディスプレイステージを整備する。

室名	現在の室名 (変更有のみ)	概要・与条件など
トイレ		・男女別のトイレのほか、オストメイト機能を備えた、だれでもトイレを整備する。
湯沸室		・運営や館内活動に必要な設備を備える。
エレベーター		・車いすでの利用を想定した設備を備える。 ・資料搬入に十分な広さと設備を備える。
その他共用部分（階段・倉庫・機械室 等）		

2階 地域学習と探究のフロア

※網かけ部分は特に充実させる機能

室名	現在の室名 (変更有のみ)	概要・与条件など
地域展示 「しながわ NAVI」	ロビー	・品川区内の5地区の情報を展示する地図やタッチモニターを整備する。 ・調べ学習ができるコーナーも設ける。
ライブラリー	図書資料室	・壁面をガラスパーティションにし、内部が見え、常時、自由に利用できるよう整備する。
モースコーナー		・モース博士の書斎をイメージした空間とする。 ・発掘資料や著書などの資料展示を行う。
休憩・閲覧スペース	旅籠屋デッキ	・ベンチを設け、書籍の閲覧スペース・休憩スペースとする。 ・展示ケースで、前年に寄贈された新着資料の公開を行う。
講堂		・歴史館の開催する講座のほか、一般への貸室を行う。 ・非貸室時には来館者が自由に利用できる場として公開し、ジオラマ展示、壁面を利用した展示を行う。 ・団体来館者等の休憩・飲食スペースとしても利用する。
ボランティア控室	マイクロ室	・解説ボランティアの待機・休憩エリアとして使用する。
収蔵庫(2)		・主に古文書の収蔵を行う。 ・紙資料の保存に必要な温湿度管理のための空調を整備する。
館長室	資料準備室	・執務および応接機能を設ける。
書庫	館長室	・貴重書を収蔵する。 (基本は閉架、利用時には閲覧室使用を想定)
閲覧室		・古文書調査作業に必要な作業台等を設ける。
トイレ		・男女別のトイレのほか、オストメイト機能、ベビーベッドを備えた、だれでもトイレを整備する。
その他共用部分（授乳室（現：映写室）・階段・倉庫・機械室・バルコニー 等）		

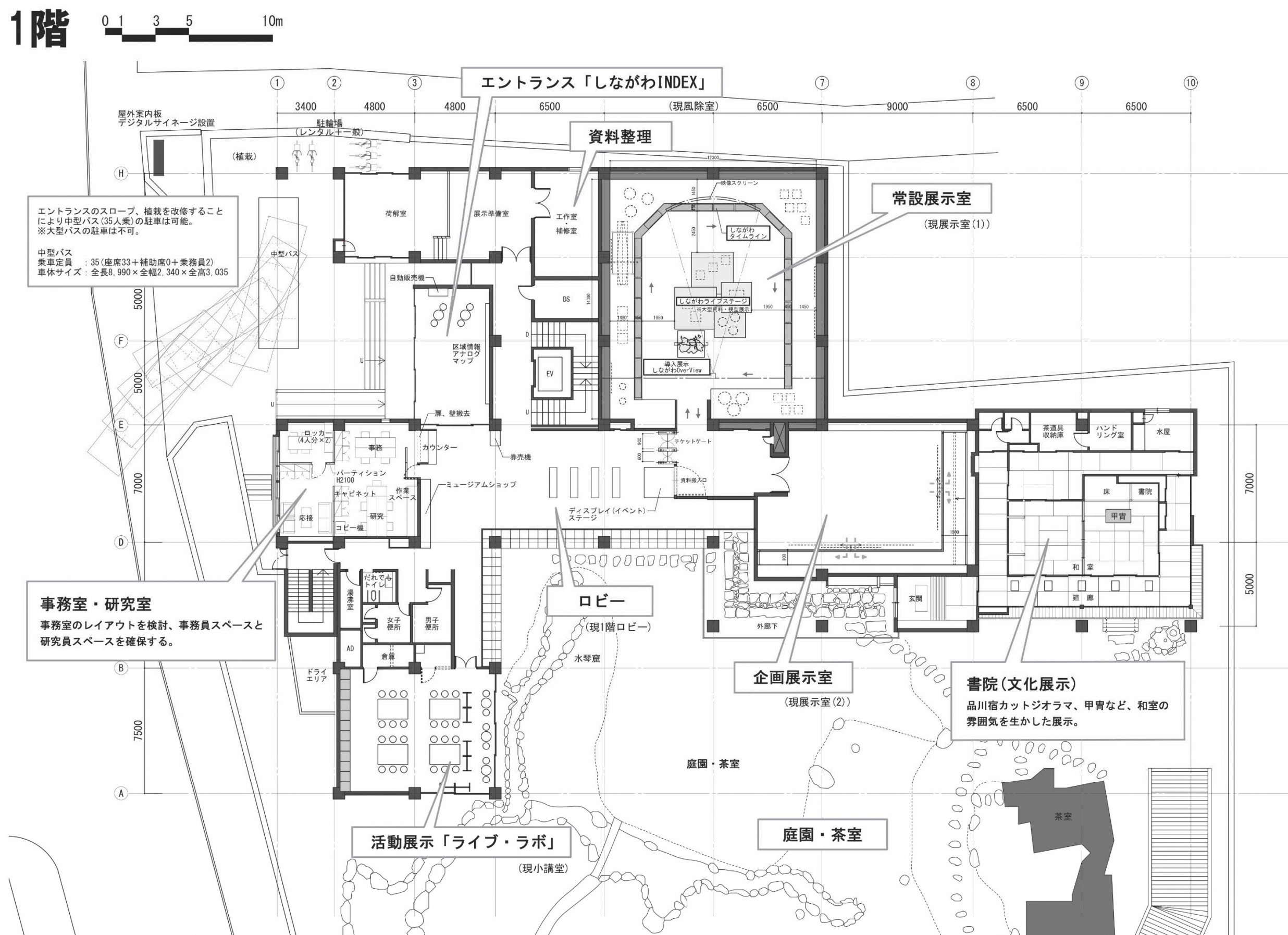
地下階 収蔵と設備のフロア

室名	現在の室名 (変更有のみ)	概要・与条件など
収蔵庫(1)		・民具等、主に紙製以外の資料を収蔵する。
倉庫／簡易収蔵庫	器材室・暗室 ・写真室 ・シャワー室	・環境変化に耐えられる資料の保管、備品の収納に用いる。
その他共用部分（倉庫 等）		
機械室		
電気室		
監視室		

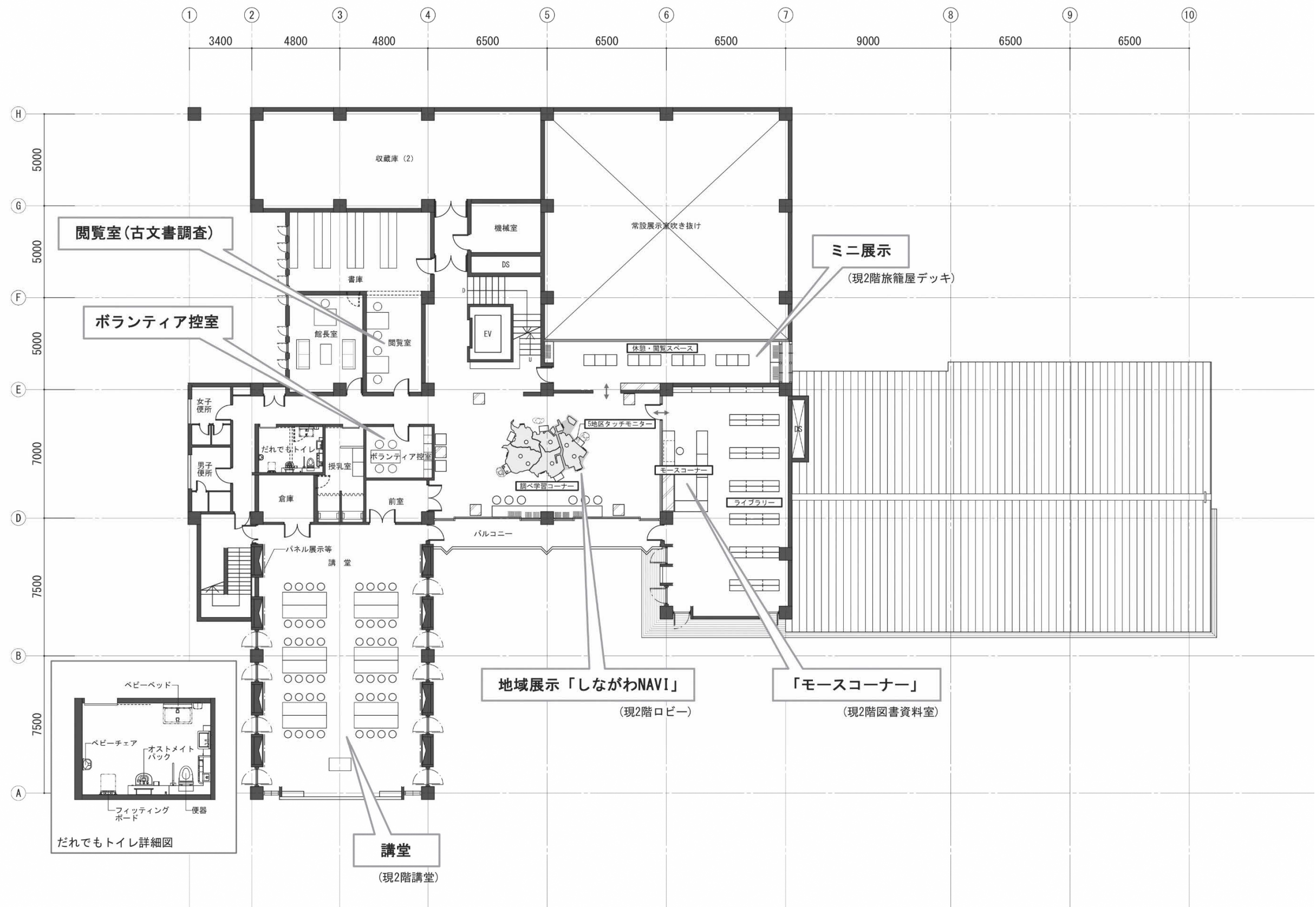
屋外 憩いと活動のスペース

室名	概要・与条件など
庭園	・庭木や池などの風景、水琴窟などについて、より多くの来館者が楽しめるように整備を行う。 ・車いすでの通行ができるように、園路の整備を行う。
茶室	・公開など活用ができるように改修を行う。
駐車場	・駐車可能な最大サイズである中型バス1台が駐車できるスペースを整備する。
屋外階段／スロープ	・駐車場の整備に伴いスロープ位置を変更し、車いすでの利用に配慮した幅と勾配で整備する。
屋外案内板	・デジタルサイネージを設置し、視認性を高める。

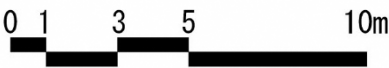
1 階



2階



地階



(3) 既存建物の課題と施設改修方針

施設の長寿命化を図るとともに(2)諸室計画を実現するために、課題に応じて必要な改修を行う。

① 建築

【屋根】

- ・近年部分補修等が実施されているが、竣工から 34 年が経過し経年劣化が見られる。
 - ・瓦屋根のため、地震・台風等による落下事故が懸念される。
- 耐候性に優れ、かつ落下等の危険が少なく、軽量な材料により屋根全面を葺き替える。

【屋上（設備機器置場）】

- ・平成 19 年にウレタン塗膜防水による防水改修工事が実施されているが、ウレタン塗膜防水の標準耐用年数（10 年）を超過し、計画的改修時期を迎えている。
- 今回の設備機器更新に合わせ、防水全面改修（設備基礎とも）を行う。

【外壁】

- ・平成 19 年に正面側のみ外壁改修工事（他は洗浄程度）が実施されているが、経年劣化による、ひび割れ・汚れ等が散見される。
 - ・休館を伴う施設全面リニューアルであることを考えると、施設ファサード（前面）を刷新することで、改修のインパクトが最も効果的に得られる。
- 躯体のひび割れ補修等を実施した上で、耐候性・意匠性ともに優れた材料による外壁全面改修を行う。

【内部（共用部・各室とも）】

- ・各部位に経年劣化が散見される。
 - ・トイレは、竣工当時主流であった「湿式」のままであり、通常の清掃では対処が難しい汚れ（タイル目地等）および臭気・暗さ等の問題がある。
- 休館を伴う本件の全面リニューアルに合わせ、仕上げの全面更新を行う。
トイレ等は、全面改修の上、近年主流である「乾式」とする。

- ・ 1階の湯沸室、地階の現：脱衣室、シャワー室の天井材（フレキシブルボード）にアスベストの含有が認められた。
- 改修工事にあたり、材料を湿潤にして手作業で解体するなど作業時の飛散防止にも配慮する。現：小講堂の壁材（有孔ケイカル板）については未調査のため、今後確認し必要な対応を行う。

【既存不適格部位】

- ・ 防火シャッター：危害防止装置未対応。
- ・ 昇降機：戸開（とびらき）走行保護装置・地震時等管制運転装置未対応。

→休館を伴う本件の全面リニューアルに合わせ、防火シャッター・昇降機を現行法に適合した機種への全面更新を行う。

② 機械設備

【空調設備】

- ・ 蓄熱槽の温度を一定に保てないため空調・除湿に影響が出ている。
- ・ 収蔵庫の温度・湿度の制御が難しい。
- ・ 講堂・書院がセントラル空調のため、施設利用者が任意に温度設定することができない。

→蓄熱槽は取り止める。

熱源機器、空調機（エアハンドリングユニット）を更新する。

講堂・書院は個別空調化する。

【自動制御設備】

- ・ 温湿度を一定に保つことが難しく調整に経験が必要である。

→中央監視装置、自動制御機器を含む全面更新とする。

【衛生器具設備】

- ・ 長期間更新が行われていない。

→長期休館時期に各設備を全体的に更新することが望まれる。

【衛生設備・消火設備】

- ・ 竣工当初から更新されておらず計画更新年数を越えている。

→長期休館時期に各設備を全体的に更新することが望まれる。

③ 電気設備

【受変電設備・幹線設備】

- ・竣工当時の機器・配管・配線を現在も使用しており、受変電設備は交換期を迎えている。

→大規模停電が可能な長期休館時期に受変電設備・幹線設備とも、全体的な更新が望まれる。

【動力設備】

- ・動力機器への電源供給箇所において経年劣化によるケーブルラックの脱落箇所等がある。

→空調機器更新に伴い、電源供給の更新を行う必要がある。

既存配管・配線の流用可能な場合でも更新が望まれる。

【電灯・コンセント設備】

- ・竣工当時の蛍光灯器具や、一部改修を行った箇所の蛍光灯器具がいまだ使用されている。また、配管・配線やスイッチ・コンセント等の配線器具類についても大部分が竣工当初のままととなっている。

→省エネルギー化を考慮し LED 器具に更新することが望まれる。

配線・配線器具類等も全体的な更新が望まれる。

【弱電設備】

- ・竣工当初より一部改修を行っている設備もあるが、改修後 20 年前後経過している設備が大部分を占める。

→長期休館時期に各設備を全体的に更新することが望まれる。

【構内配電線路】

- ・屋外東電支給キャビネット内の UGS（地中線用高圧ガス開閉器、Underground Gas Switch）について 2011 年に更新を行っている。

→環境に配慮し、ガスを使用する UGS ではなく、空気をつかう UAS（地中線用高圧気中開閉器、Underground Air Switch）への更新が望まれる。

4. 展示リニューアル計画

(1) 展示リニューアルの考え方

- ① いつでも品川の通史が見られる常設展示室と、柔軟に展示更新が可能な企画展示室の2室構成で、品川の歴史を安定的かつ多面的に紹介
 - ・ 原始・古代から近現代までの通史を常設展示室1室に集約し、いつでも品川の歴史をひとつながりで見られるようにする。
 - ・ 企画展示室は特別展示・企画展示のほか、複数のテーマ展示を入れ替えながら活用し、品川の歴史の魅力を多面的に紹介する。
- ② 地域の紹介展示や最新情報の発信を充実させ、地域とのつながりを強化
 - ・ 区内の各地区（品川・大崎・大井・荏原・八潮）に根ざした歴史や文化の紹介を充実させ、地域住民が自分たちの地域を学ぶことができる、特徴のある展示をめざす。
 - ・ 展示室以外でも、地域案内やイベント紹介など、最新情報の発信を積極的に行う。
- ③ 日々の博物館活動を公開し、区民参加型の展示・活動のあり方を探究
 - ・ 最新の研究結果や新着資料などを紹介するコーナーを整備し、歴史館の活動や研究の進展をリアルタイムで伝える。
 - ・ 資料調査や展示準備のためのスペースを一部公開型にし、ボランティアや区民の参画を得ながら、ともに展示をつくる試みをめざす。
- ④ 来館者を増やしリピート利用を促進する可変的で更新性の高い展示
 - ・ 展示替えや内容更新がしやすい展示システム、資料のデジタル化などにより、より多くの資料を公開し、来館するたびに新鮮な見学体験ができるようにする。
 - ・ 目的や興味に応じて展示をより深く楽しめるワークシートやプログラム等についても、展示とあわせて計画する。

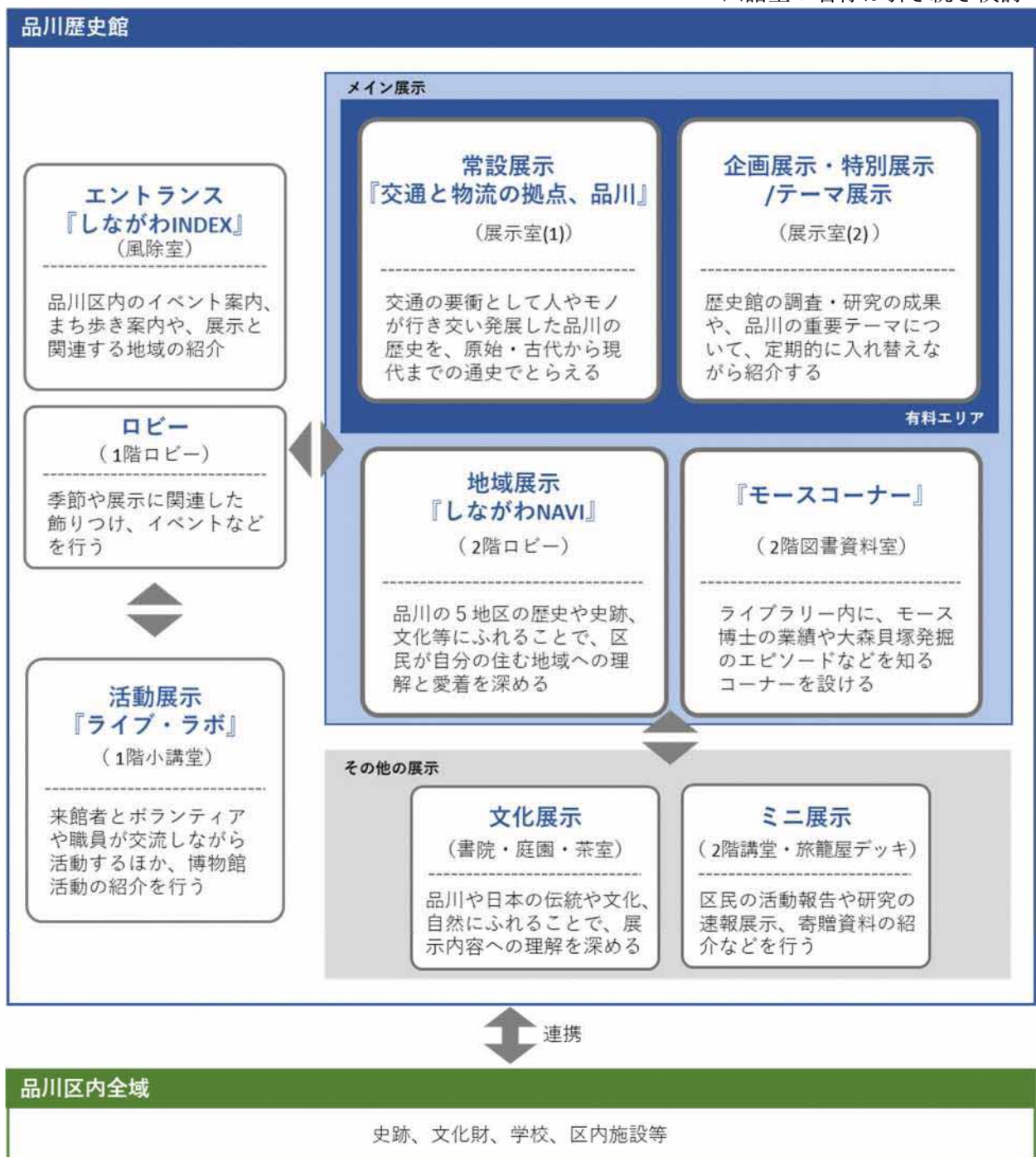
⑤ 幅広い年齢層の方や国内外の観光客などが見学や体験を楽しめる最適な展示手法を計画

- ・ 触れる展示、体験型の展示など来館者の能動的な学びを促す展示手法を充実させ、幅広い年齢層の方や障害のある方が思い思いに楽しめる展示をめざす。
- ・ ICT など最新技術を駆使した情報提供や多言語対応など、来館者の多様なニーズに応える解説計画を検討する。

(2) 展示の全体構成

- ・「常設展示」「企画展示・特別展示／テーマ展示」「地域展示」「モースコーナー」の4つの展示をメインに、歴史館の利用者エリアをすべて展示スペースととらえ、館内の各所で展示を行う。
- ・これにより館全体の展示内容の充実と、来館者が展示を目的に館内を巡る動機づけを生み出し、満足度の向上をはかる。
- ・また、区内の史跡や施設と連携した展示により、館と区内各所の行き来やリピート利用につなげる。

※諸室の名称は引き続き検討



(3) 各展示の展開

① 常設展示

- ・ 常設展示は1階の現在の展示室（1）にて展開し、品川区の通史を「原始・古代」「中世」「近世」「近現代」の4つの時代区分で紹介する。
- ・ 品川の歴史的な特徴を紹介するため、常設展示のテーマとして下記を掲げる。

交通と物流の拠点、品川

各時代の交通手段の移り変わり、行き交う人々や物資、交流で繁栄した品川のまちの様子などを紹介しながら、古くより交易の中心として人々が交流し交通が発達し、これからも発展していく品川の特色を伝える。

- ・ 品川の歴史を理解する上で重要な地形について取り上げる導入展示「しながわ OverView」を展示室入口に設け、歴史の大きな流れと地形を関連づけて紹介する。
- ・ 品川の歴史を代表するトピックを印象づけるため、展示室の中央に「しながわライブステージ」を設ける。交通や物流の観点をふまえ、実物資料やシーン模型、大型映像などで当時の様子をいきいきと伝える。
- ・ 品川の通史を展示資料とあわせて時系列でわかりやすく紹介するため、壁面展示の手前に「しながわタイムライン」を設ける。年表、特徴的なトピック、交通や物流の手段・生み出される価値などについて、実物資料やパネルを用いて紹介するほか、情報端末や体験型展示を盛り込む。
- ・ 継続して実施する区内の歴史の調査・研究の進展に応じて、実物資料や解説パネル等を入れ替えることで展示内容を更新し、最新の情報や資料を公開する。特に、「しながわタイムライン」はユニット化することで、きめ細やかな更新ができるようにする。

大型映像

(品川の歴史の流れをダイナミックに紹介)



しながわタイムライン
(実物資料とともに通史を
わかりやすく紹介)

しながわライブステージ
(各時代の代表的なトピックを紹介)

導入展示

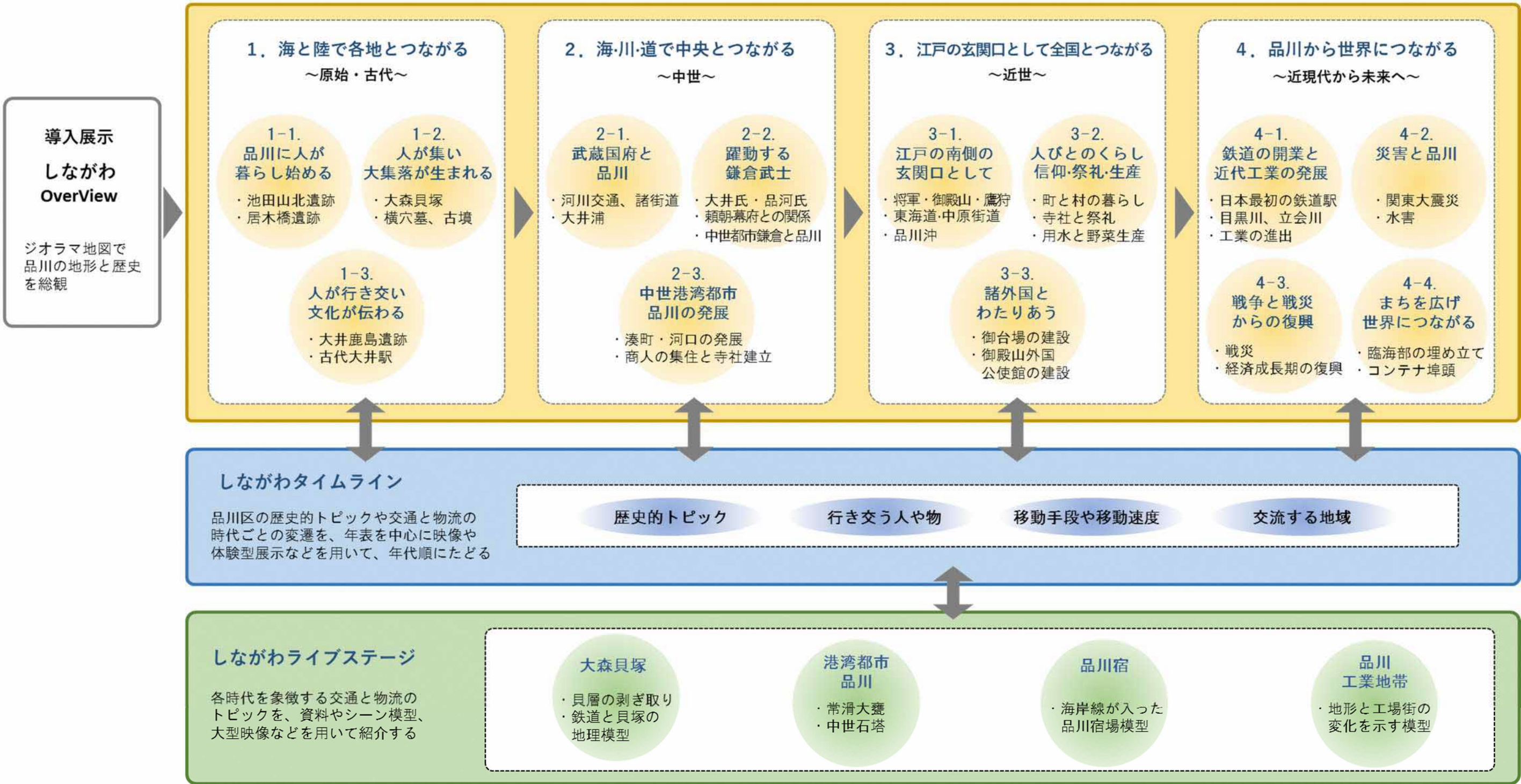
しながわ OverView

(地形と歴史の流れを関連付けて紹介)

常設展示のテーマ構成

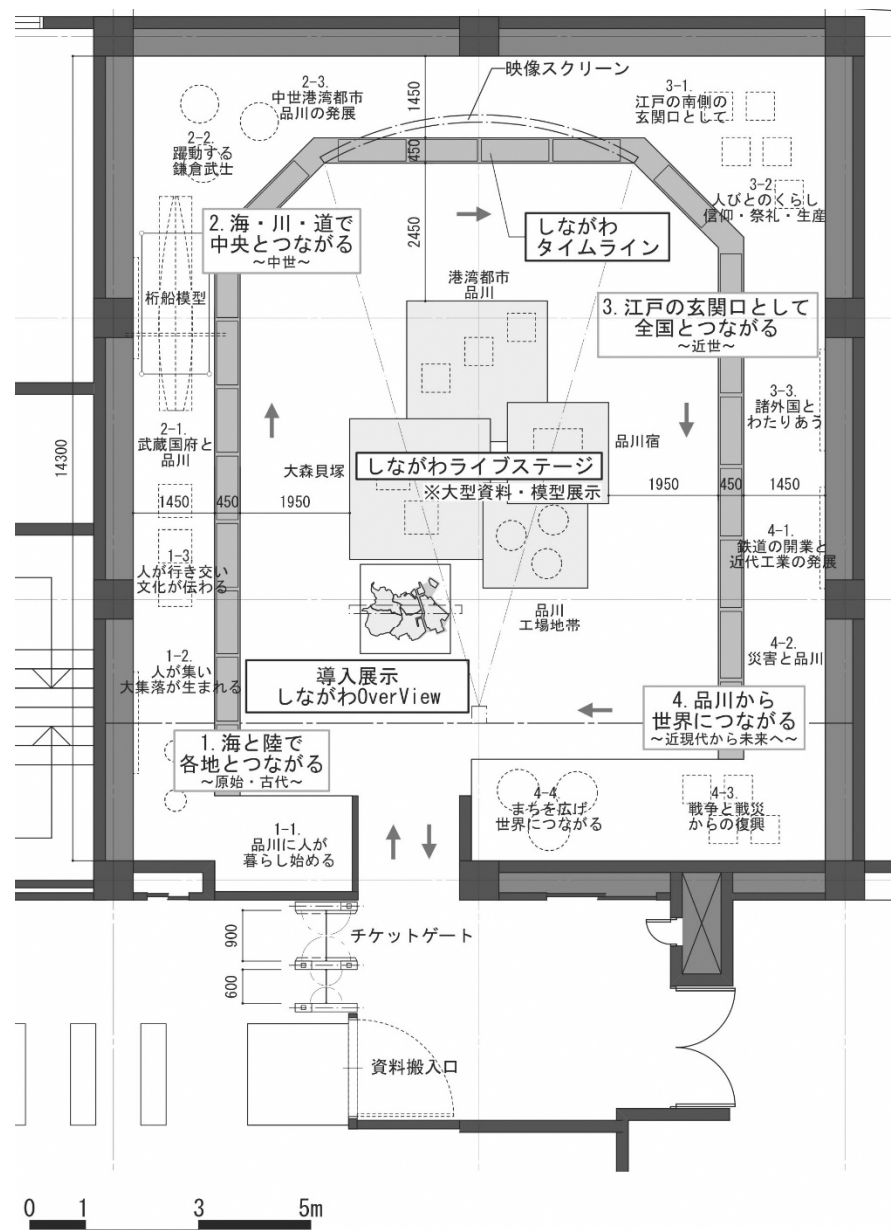
テーマ「交通と物流の拠点、品川」

海と川を擁し、街道が発達した品川では、いつの時代も人や物が行き交い、交通が発達してきた。これは原始・古代から現代へ連綿と続く品川のまちの特徴であり、他の地域には出せない品川ならではの特色である。そして交通や物流の様子は、それぞれの時代を反映して大きく変化してきた。常設展示のリニューアルにあたり、「交通と物流」を中心テーマに据えることで、品川にもたらされたもの、品川が全国にもたらしたものを紹介し、各時代の品川のまちの様子や、今後も発展する品川の特徴を伝える。



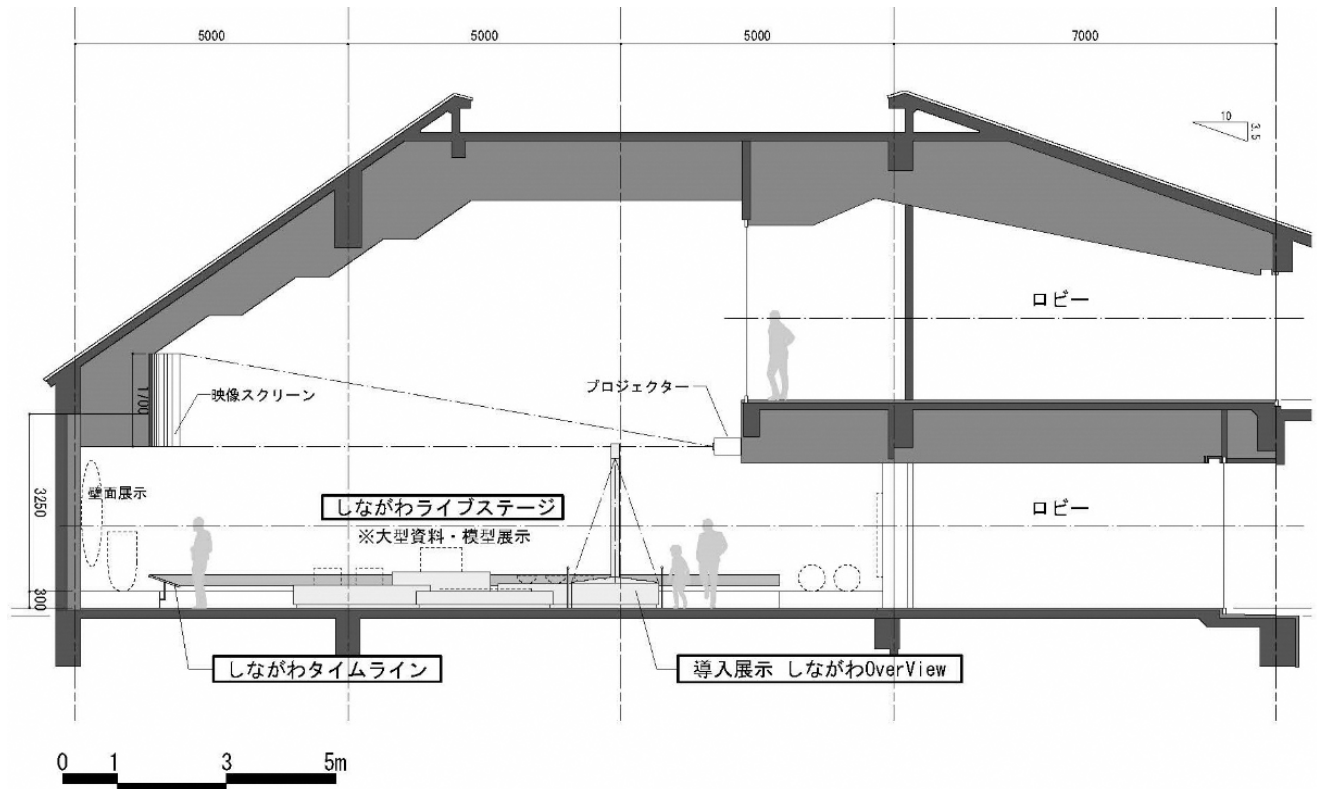
常設展示室の平面プラン（案）

- ・実物資料の展示を中心に、4つの時代区分で構成する。壁面では、資料の性質・大きさ等によりケースを設けたり、ステージの奥行きを調節し、可変的に資料を入れ替えながら紹介する。
- ・「しながわ OverView」
展示の導入として、品川区の5地区とその歴史的特徴を地形と映像を関連づけて伝える。
- ・「しながわライブステージ」
各時代を象徴するトピックを大型資料やシーン模型、映像等で紹介する。
- ・「しながわタイムライン」
年表、解説パネル、映像、体験型展示などを組み合わせて、品川の通史を紹介する。



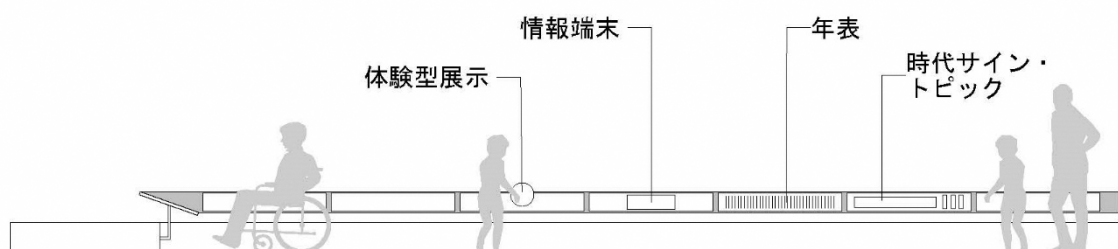
常設展示室の立面プラン（案）

- ・吹き抜け空間を活かし、大型資料の展示や空間上部への展示などの多様な展示手法を検討する。
- ・2階の休憩・閲覧スペース（現：旅籠屋デッキ）からも映像やしながわライブステージの展示が見渡せる構造とする。



「しながわタイムライン」の構成（案）

- ・時代サイン、トピック、年表、情報端末、体験型展示などを組み合わせて可変的に展開できるようにする。
- ・子どもや車いす利用者の目線からも見やすい高さで角度に設定する。



② 企画展示・特別展示／テーマ展示

- ・企画展示・特別展示／テーマ展示は、現在の展示室（2）で展開する。
- ・調査・研究の成果を定期的に紹介するため、企画展示と特別展示をそれぞれ開催する。様々なテーマや展示資料に合わせて柔軟に対応できる展示システムを整備する。

a. 企画展示

- ・館所蔵の資料を中心に構成し、年1回程度の頻度で行う。

b. 特別展示

- ・他館や個人の資料を借用して、企画展示よりも大掛かりに開催する。年1回程度の頻度で行う。

c. テーマ展示

- ・企画展示・特別展示を行わない期間に開催し、品川の歴史における重要なテーマを取り上げる。各テーマ展示はユニット形式で構成し、季節や区内のイベント等に合わせて組み替えながら展示できるようにする。
- ・また、企画展示や特別展示の内容をまとめてテーマ展示にするなど、展示を充実させる方法についてもあわせて検討する。

<テーマ展示の例>

- ① 5地区の紹介
- ② 品川の古墳
- ③ 中世の信仰
- ④ 東海道品川宿
- ⑤ 桜の名所品川
- ⑥ 品川御殿と東海寺
- ⑦ 明治維新と品川 等

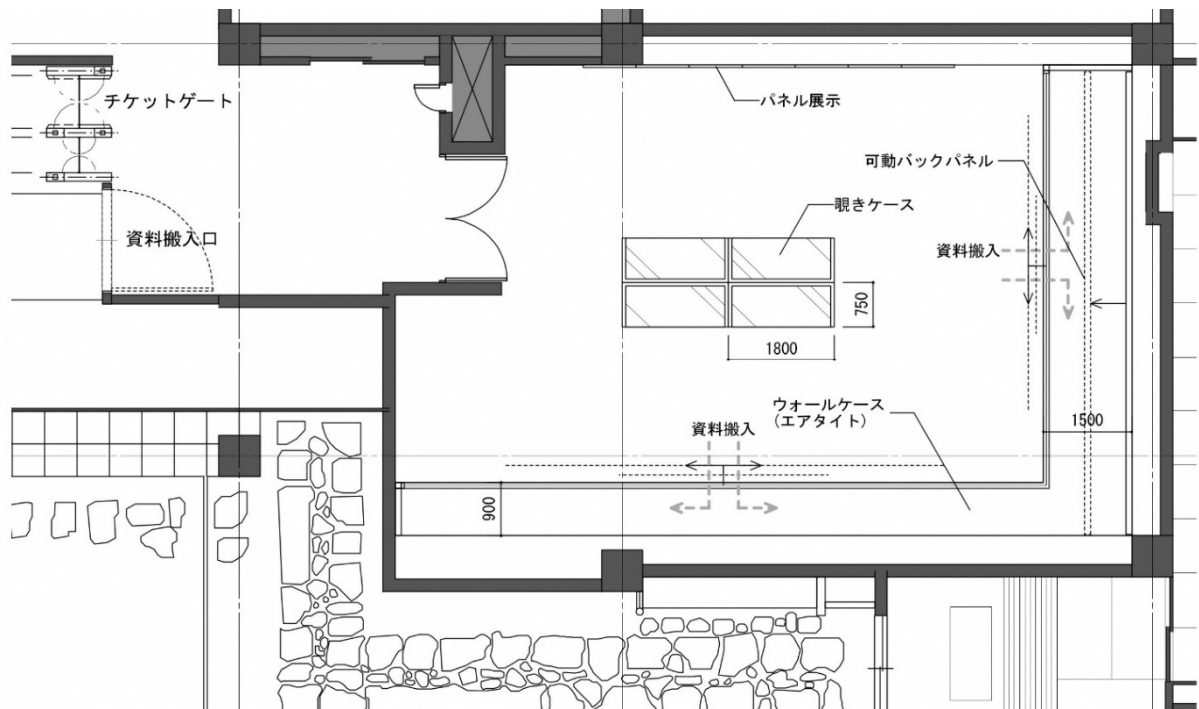


テーマ展示のユニットイメージ図

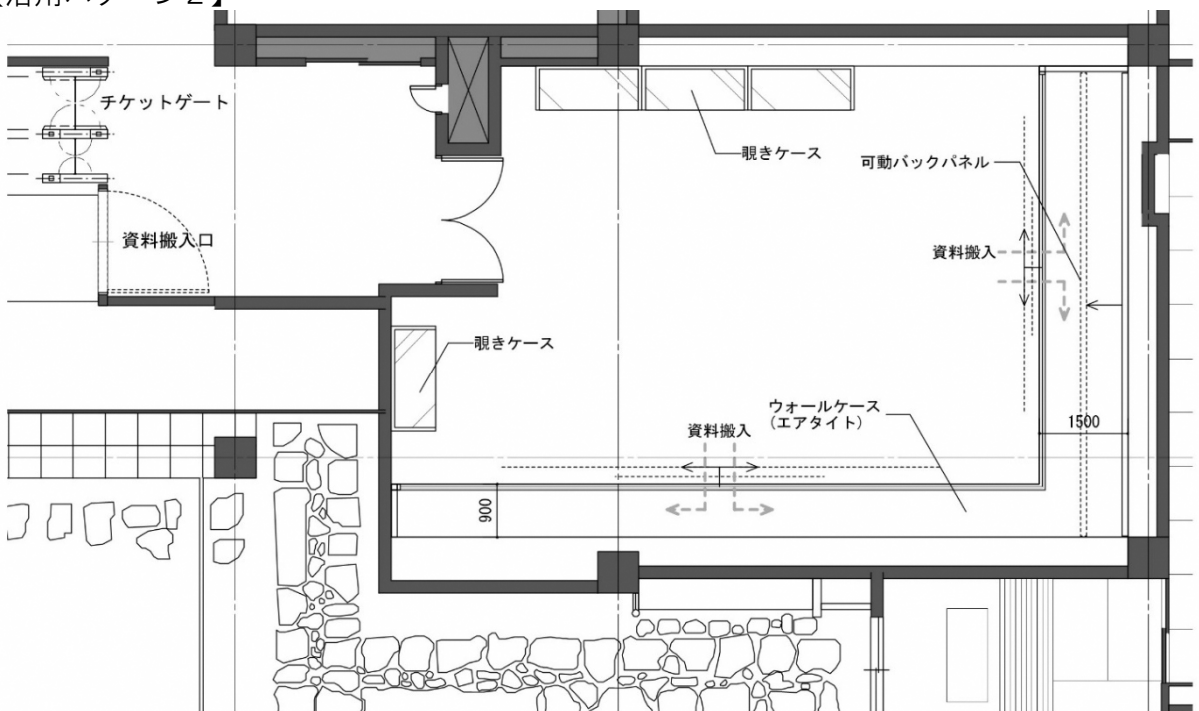
企画展示室の平面プラン（案）

- ・2面のウォールケースと覗きケースで、多様な展示に対応する。

【活用パターン1】

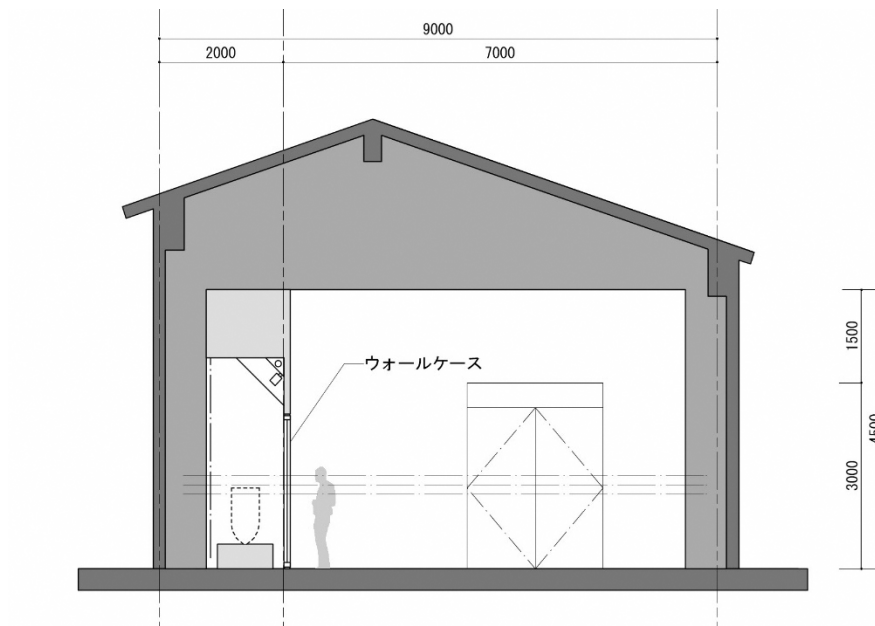


【活用パターン2】



0 1 3 5m

企画展示室の立面プラン（案）

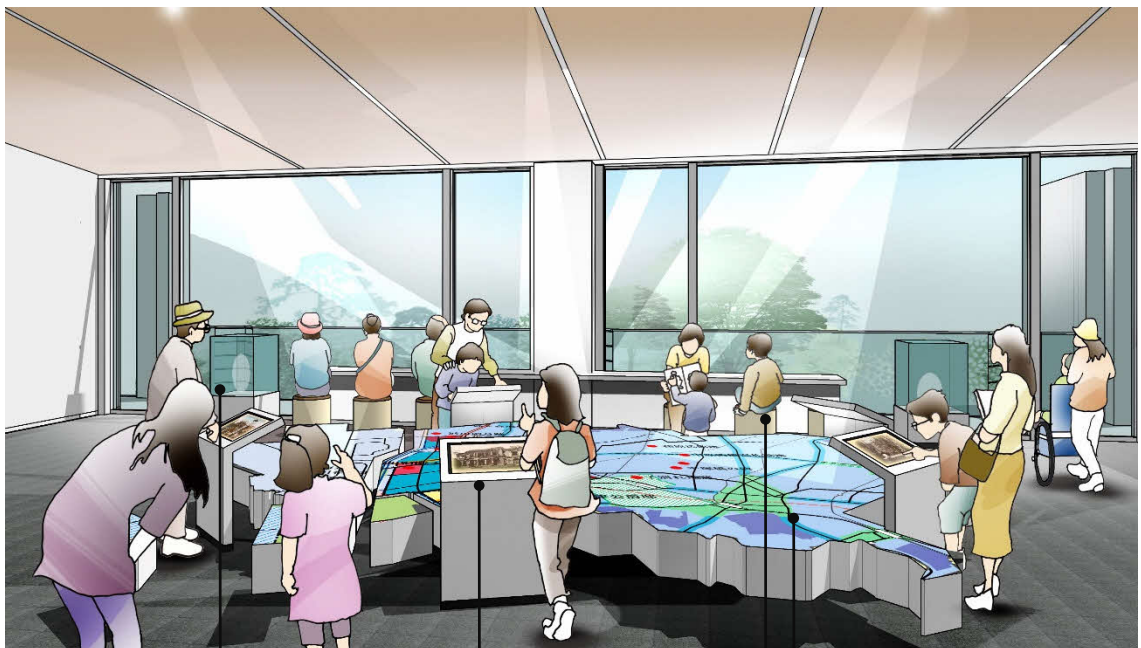


③ 地域展示『しながわ NAVI』

- ・ 2階ロビーに整備し、来館者が無料で観覧できる展示とする。
- ・ 品川区の5地区（品川・大崎・大井・荏原・八潮）について、地形や歴史的なトピック、史跡や代表的な施設などが分かる大きなマップ型のテーブルで紹介し、区民が自分の住む地域と結び付けて理解できる展示とする。
- ・ マップに加えて、ゆかりの資料や体験型展示、情報端末などを用いて、分かりやすく楽しい展示とする。また、各地区の情報を蓄積・発信することで、調べ学習にも対応し、地域への理解と愛着を深めるための場所とする。

<地域展示で紹介する情報の例>

- ・ 地形・土地利用と地名、交通、公共施設
- ・ 地域の歴史や史跡、歴史的建造物、偉人
- ・ 地域に根差した伝統工芸、職人、祭り、文化
- ・ 地域における様々な活動 等



実物資料または
複製資料の展示

5地区の歴史や
文化等を紹介する
タッチモニター

品川の地形や交通、
公共施設などが総観できる
大きなマップ型テーブル

調べ学習コーナー

④ モースコーナー

- ・ライブラリーの一部を用いて、日本の考古学の祖であるモース博士について、業績や大森貝塚発掘のエピソードなどを紹介する。
- ・大森貝塚からの発掘資料や、博士の著書等もあわせて展示するほか、姉妹都市であるアメリカ合衆国メイン州ポートランド市との交流についても伝える。
- ・大森貝塚との関連性において、大森貝塚遺跡庭園を紹介し、誘導を図る。



モース博士の机をイメージし、
発掘資料や著書などを展示

書籍と資料を関連付けて紹介

ライブラリーの書棚

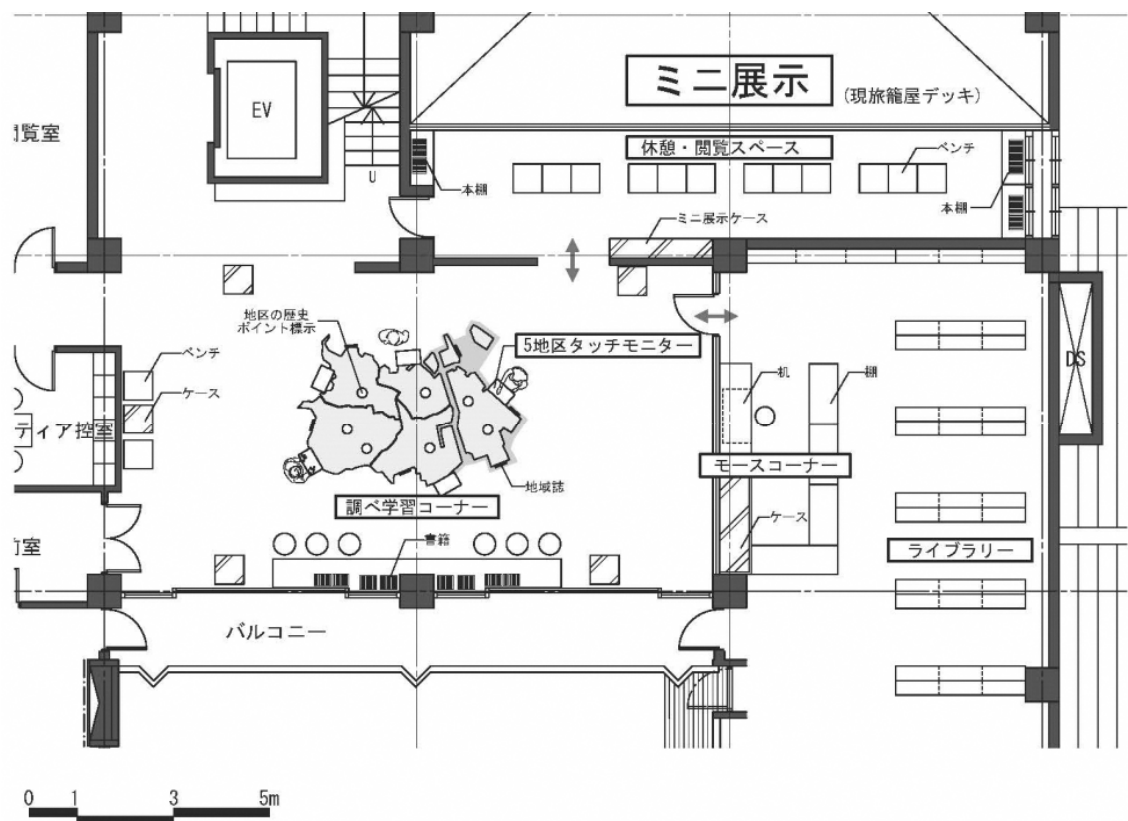
2階の平面プラン（案）

・5地区の情報スペース「しながわ NAVI」

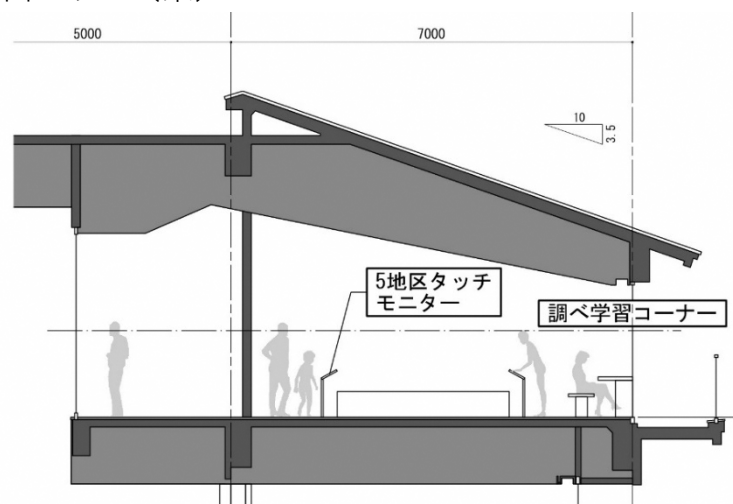
地図と地域の歴史のポイント展示の周囲にタッチモニターを配置し、5地区のそれぞれの情報を検索できるようにする。調べ学習ができるコーナーも設ける。

・「休憩・閲覧スペース」

ベンチに座って常設展示室の大型映像の観覧や書籍の閲覧ができる。ミニ展示ケースでは寄贈資料や季節等に応じた資料を紹介する。



2階の立面プラン（案）

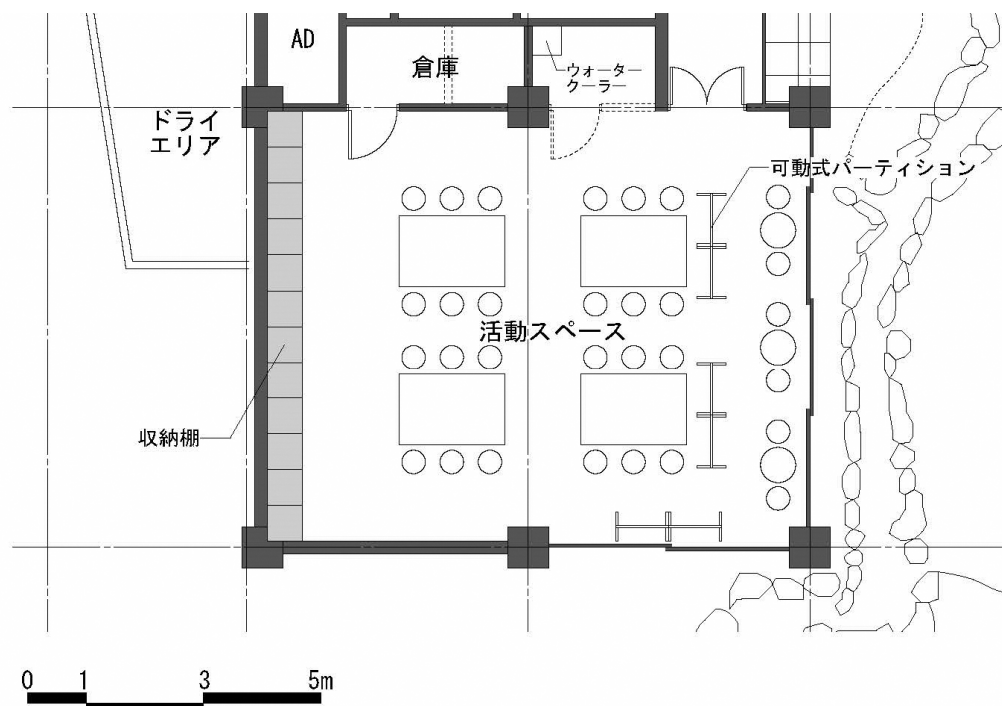


⑤ 活動展示『ライブ・ラボ』

- ・1階小講堂に整備し、広い活動スペースや机を利用して、来館者やボランティアが、職員とともに主体的に活動できる場にする。
- ・ボランティアによる昔語りなどのワークショップ、区民が企画する展示の制作活動や発表なども行う。
- ・収蔵前の新着資料の展示や、学生による資料整理など、博物館活動の紹介や、体験・学習の場としても活用する。
- ・庭園を見ながらくつろぐことができる休憩スペースとしても活用する。



ライブ・ラボの平面プラン（案）



⑥ その他の展示

歴史館の利用者エリアを広く展示スペースととらえて、各所で展示を行う。

a. エントランス・ロビー

- ・ エントランスでは展示案内、品川区内のイベント案内、まち歩き案内、展示と関連する地域の紹介を行う。来館者を出迎え、区内の周遊へ送り出す場所とする。
- ・ ロビーは各展示空間をつなぐ場として、季節や展示に関連した飾りつけやミニステージ等のイベントを行い、変化と活気のある空間にする。

b. ミニ展示

- ・ 館内の各エリアで小規模な展示を展開することで、区民や来館者が館内を広く利用するきっかけづくりを行う。
- ・ 2階の講堂は、非貸室時には来館者が自由に利用できる場として公開する。既存のジオラマ模型の展示のほか、壁面を利用した区内の史跡・建築の紹介、区民の活動報告などの展示を行う。また、団体来館者等の休憩・飲食スペースとしても利用する。
- ・ 2階の現・旅籠屋デッキにはベンチを設け、常設展示室の大型映像の観覧や、書籍などの閲覧・休憩スペースとして利用する。展示ケースでは寄贈された新着資料や季節等に応じた資料の紹介を行う。

c. 文化展示

- ・ 書院は、文化活動団体への貸室のほか、和室の雰囲気を活かした展示、復元衣装の着衣体験、館の自主事業や、民間主催のイベント等を行える空間とする。四季の草花で彩られる庭園や茶室、水琴窟なども合わせて、楽しみながら日本文化に触れ、全身で体験できる場所とする。



書院の活用イメージ

5. ユニバーサルデザイン計画

(1) 基本方針

- ・品川区では平成31年（2019）に「第3期品川区地域福祉計画」を制定し、地域共生社会の実現をめざしている。品川歴史館のリニューアルもこの計画に基づき、「年齢、性別、人種、個人の能力等にかかわらず、はじめからすべての人ができる限り利用可能なように製品や建物、環境をデザインする」というユニバーサルデザインの考え方を、施設や展示に取り入れて整備を行う。
- ・計画段階から障害のある方をはじめ、当事者の意見や視点を幅広く反映しながら検討を行う。

(2) 現在の品川歴史館の状況

- ・リニューアル基本計画の検討にあたり、ユニバーサルデザインの視点から、現状の施設や展示における課題把握のための調査を実施した。主な意見は以下の通り。

【課題のある点】

- ・出入口の階段が降りるときに危険を伴う。
- ・スロープからエントランスまで距離があるうえ、自動ドア前のスペースが狭いため、車いすでは転落の危険がある。
- ・受付カウンターが自動ドアに近く、衝突の危険がある。
- ・庭園やベランダへの段差が大きく車いすでは出ることができない。
- ・館内の案内表示などに配慮が必要である。
- ・階段床面および点字ブロックが同色で段差端部の境目が分かりづらい。
- ・自動ドアのデザインなど、視認性に課題がある場所がある。
- ・見る展示が中心なので、実物資料や模型に触れる展示があると良い。

【良い点】

- ・通路幅やエレベーターが広く、車いすでも利用しやすい。
- ・多目的トイレは十分なスペースがあって良い。
- ・展示室で資料に近付いて観覧できて良い。展示全体の高さが低くて車いすでも見やすい。
- ・解説パネルの文字が大きく、分かりやすい。

- ・QRコードを使った外国人向けの多言語対応は、弱視の人にとっても拡大して見られるので良い。
- ・上記の結果を踏まえ、改善が必要な部分はできる限り対応し、現状の良い面については引き続き活かしながら整備を行う。

(3) 特に配慮すべき事項

① 車いす利用者や高齢の方々等にも負荷のない空間づくり

- ・車いす利用者や高齢の方にも負荷のないよう、十分な通路幅を確保するとともに、できる限り段差の解消などの整備を行う。

② 誰でも見学しやすい展示の実現

- ・子どもや車いす利用者の目線に配慮し、展示や解説パネルは見やすい位置や高さに設定する。また、展示什器についても、車いすの足元スペースなどに配慮し、利用しやすい環境を整備する。
- ・映像の字幕対応、音声による解説、触れる展示物の設置など、展示体験を充実させるための方策についても検討を行い、多様な人への情報提供に努める。

③ 読みやすい色彩や文字に配慮した案内表示や解説パネルの整備

- ・カラーユニバーサルデザインに配慮し、できる限りすべての人々に情報が正確に伝わるよう、来館者の視点に立って検討を行う。
- ・文字のフォントやサイズについても視認性の高いものを検証しながら検討する。

④ 情報端末等による多言語対応

- ・国内外の多くの人々が展示を楽しめるよう、現在導入しているQRコードを利用した解説の多言語対応など、適切な情報提供を行う。

⑤ 安心して来館できる受け入れ体制づくり

- ・高齢の方や障害者が安心して施設を利用できるよう、人的な対応も引き続き行う。

- ・ 障害のある方々とその家族等を対象にしたイベントを館内で実施するなど、来館するきっかけづくりとなる取り組みを行う。館の職員は支援方法を学び、対応を強化するための機会とする。

6. 活動の充実化

(1) 基本方針

モノ、ヒト、コトの“わ”をつなぎ、多様な来館者のニーズに柔軟に対応しながら、事業活動を適切かつ効果的に遂行するため、ボランティア活動のより一層の充実や関連団体との連携拡大などにも取り組む。

(2) ボランティアの活性化

- ・現在行われている展示解説とともに、資料整理や調査・研究、イベントの支援などにも活動の場を広げ、博物館の活動により深く関わってもらえるしくみづくりを検討する。
- ・ボランティアの活動拠点として、ボランティアルームやライブ・ラボを想定し、整備を行う。
- ・ボランティア養成講座の実施や、連携イベントの実施などを検討・計画する。

(3) 関連団体や施設とのネットワーク強化

学芸員・職員を中心に、ボランティアの協力を得て、区内の活動団体や大学などの教育機関、企業など、さまざまな主体と連携した事業を検討する。

① 近隣の博物館や文化施設など

- ・展示や企画において、単館では難しい規模や内容の事業を実現するほか、来館者の周遊による近隣の文化施設全体の活性化のため、近隣の博物館や文化施設等と合同で事業を行うことを検討する。
- ・調査・研究において連携することで、研究活動のさらなる活性化をめざす。

② 歴史文化サークル、関連団体など

- ・施設利用のほか、連携イベントの開催などを検討する。区内で活動実績のある諸団体と連携した、まち歩きプログラムなども検討する。

③ 大学・専門学校・高校

- ・調査・研究や企画展示、教育プログラム、イベント等での連携などを検討する。
- ・高校の部活動、学校の文化祭などと連携した取り組みについても引き続き検討する。

- ・学校との連携を充実させるため、教員や研究者と連携した合同研究や講座、教材開発などを検討する。

④ 企業・事業者

- ・区内のゆかりのある企業・事業者をはじめ、職人・アーティストなどの協力を得て、ここでしかできない事業展開を検討する。



7. リニューアル後の活発な利活用のための取り組み

(1) 広報・情報発信

館内の展示やイベント等の活動を、区民や幅広い利用者に知ってもらい、歴史館の認知度を上げるために、広報や情報発信の充実を図る。

① 広報の充実

- ・ 現在、実施している歴史館のホームページでの情報発信、区報への掲載等に加え、SNS などを活用して館の活動を日常的に公開することで、歴史館のにぎわいを伝え、身近に感じられるようにする。
- ・ 区内の公共施設や小中学校・義務教育学校へのイベント時のチラシ、ポスターの配布を継続的に行い、区民や地域の子どもたちの利用を促進する。
- ・ フォトスポットの設置や SNS への投稿を促すキャンペーンなど、来館者自身による情報発信を促進させるしくみづくりを行う。

② 館内の情報受発信機能の充実

- ・ 企画展示やイベントなど、館内で行っている事業や今後の予定を逐次紹介し、日々変化する様子を伝えることで、繰り返しの利用につなげる。
- ・ 区内の各地域における歴史的な見どころや文化にまつわるイベントなどの最新情報を発信し、地域学習やまち歩きのきっかけにつなげる。
- ・ 区民や利用者が情報を受け取るだけでなく、自ら情報やコメントなどを発信できる場を館内に整備し、利用者同士の交流やコミュニケーションの活性化をめざす。

(2) 諸室の活用

講堂や書院、茶室、庭園などの有効活用により、歴史館の利用方法と利用者層を多様化し、館内のにぎわいを生み出すしくみを計画する。

① 館主催の集客事業の実施

- ・企画展示・特別展示に関連した講演会や特別講座、季節に合わせたイベントなどを開催し、展示だけでは得られない深い学びや体験を提供する。
- ・書院や庭園を利用した民間企業や関連団体等への委託事業の実施も検討し、より柔軟なアイデアを活かしたイベントにより、新たな歴史館の利用者の開拓をめざす。

<民間によるイベント事業例>

- ・子どもたちや外国人観光客を対象にした、フォトスタジオや着物レンタル店による、和服着付けと写真撮影イベント
- ・子どもたちや外国人観光客を対象にした、茶道や華道の体験事業
- ・落語会やライブショーなど、多数の観客を見込めるイベント 等

② 施設の貸室

- ・お茶会や日本舞踊、講演会など文化的な活動団体への貸室を行うことで、歴史館への来館者数を増やし、にぎわいにつなげる。

③ 非貸出時に公開し、一般利用を活性化

- ・講堂や書院での事業や貸出を行っていない時に、広さを活かして展示や体験の場として公開することを検討し、諸室の認知度を高め、今後の貸室利用にもつなげる。

<講堂の活用例>

- ・学習・休憩スペースとして公開
- ・大型ジオラマ（品川本陣、戸越屋敷 等）の展示
- ・区民の作品展示
- ・体験コーナーの設置 等

<書院の活用例>

- ・各時代の復元衣装（縄文時代の衣服や江戸の旅人など）の着衣体験ができるコーナーの整備 等

(3) 周辺施設等との連携

品川区の特徴である、特色ある義務教育や活発な区民活動、周辺施設や関連団体、高校や大学、企業の力を生かして連携するためのしくみを検討することで、館内にとどまらず、区内全体に博物館活動を拡大し、ライブミュージアム化を実現する。

① 大森貝塚遺跡庭園との連携

a. ARアプリの活用

- ・令和2年(2020)2月より、アプリ「ココシル品川・大森貝塚」をリリースし、ARで実際の風景に縄文時代の風景を重ね合わせたり、スタンプラリーを利用したまち歩きなどのプログラムを提供している。今後、複数のまち歩きコースや、歴史館の展示・講座等と関連したプログラムなどを充実させることで、より強い連携を図っていく。



遺跡内解説ガイドのイメージ図

b. 体験プログラムの計画

- ・館内の展示と遺跡内での体験を連携し、大森貝塚をより身近に感じ、深く理解できるプログラムを計画する。

<プログラム例>

- ・考古学チャレンジ

実際の道具を使った模擬発掘体験で、考古学の一端に触れるプログラム。

② 品川宿など区内の史跡や文化財との連携

a. 品川歴史館での情報提供

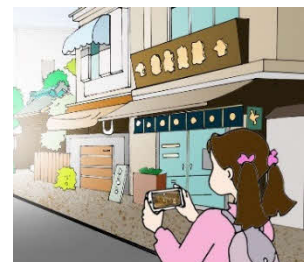
- ・エントランス『しながわ INDEX』に史跡や文化財の所在を伝えるまち歩きマップを設けるほか、常設展示室の展示資料に史跡や文化財の場所を示す案内表示を設置し、来館者を現地へいざなう。

b. 現地での情報提供

- ・現地でも、歴史館内の展示や収蔵資料と関連づけた解説を設置するなど、相互に連携した取り組みについても計画し、利用者の周遊につなげる。

<展開例>

- ・品川宿の復元模型と現在の町並みを見比べながら見学できるAR(拡張現実)など、既存の館内資料を活用して新たなまち歩きの楽しみ方ができるツールの開発を計画する。既存のアプリとの連携も検討する。



品川宿復元ARのイメージ図

c. 館と連携したツアーやツールの計画

- ・区内で活動する歴史・文化活動団体と連携し、歴史館発着の史跡巡りツアーの企画、オリジナルのワークシート、マップづくりなどを行うことで、区全体での歴史体験学習の活性化をめざす。

③ 区内の小中学校・義務教育学校との連携

a. 学校教育と連動した展示・プログラムの提供

- ・学習指導要領および区立学校教育要領における地域学習や歴史学習の内容にも配慮し、学校における博物館利用を推進する。小学生が理解できるよう、解説文の表記方法に配慮するほか、子ども用の解説等の設置も検討する。

b. 教員と連携した取り組み

- ・教員との勉強会の開催、教員研修への協力、資料集等の教材の共同開発などを行い、教育現場のニーズを恒常的に取り込む。

c. 館内における学習機会・スペースの充実

- ・児童や生徒の自由研究等の調べ学習に対応できるよう、展示室のほか、ライブ・ラボやライブラリーの整備を行う。あわせて企画展示室や講堂での研究成果発表展を行うなど、地域の歴史研究を通じた地域住民同士や住民と学芸員の交流を活性化させる。

d. 学習教材の貸し出し

- ・授業やすまいるスクールなどで利用できる学習教材を作成し、歴史館に来館しづらい場所にある学校を支援する。
- ・資料貸し出しおよび学芸員やボランティアの派遣による出張授業も検討する。



出張授業のイメージ図

④ 区内施設との連携

- ・企画展示の共催や区内施設へのお出張展示などを行い、区民が歴史資料に触れる機会を増やす。
- ・スタンプラリーイベントなど、区内施設を周遊して楽しむ企画を検討する。

⑤ 交通アクセスの改善

- ・ 周遊バスなどの誘致や近隣での駐車場確保などを検討し、駅や区内外の主要施設からの交通アクセスの改善を図る。

(4) ショップの充実

① 商品の充実

- ・ 紀要や目録などの学術的な資料を販売し、来館者の学習や研究を支援する。
- ・ 品川歴史館のオリジナルグッズの開発を継続して行う。開発にあたっては、伝統工芸作家や企業との協業を検討するなど、品川らしさ、歴史館らしさを活かす工夫を行う。
- ・ 文房具や食品など気軽に購入できる商品も盛り込み、幅広い人が利用できるように配慮する。

② 販売方法の多様化

- ・ 区内の商店街・施設等での商品取り扱いについても検討し、ミュージアムグッズを通して品川歴史館の知名度向上をねらう。

8. 整備スケジュール

- ・本計画に基づき、令和2年度（2020）から令和3年度（2021）にかけて基本・実施設計（展示および建築・設備改修）を行い、令和4年度（2022）から令和5年度（2023）にかけてリニューアル工事を行う。その後、枯らし期間を経て令和6年度（2024）のリニューアルオープンをめざす。

9. 基本計画策定の経緯

(1) 品川歴史館リニューアル基本計画策定支援アドバイザー会議委員名簿

委員名	所属・職名等
伊藤 恵造	品川区立荏原第六中学校校長
小俣 昌道	とごゑの会会長
坂本 道夫	品川郷土の会会長
鈴木 章生	目白大学社会学部教授、品川歴史館館長
浜田 晋介	日本大学文理学部教授
福田 アジオ	国立歴史民俗博物館名誉教授、品川歴史館専門委員
堀江 新三	旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会会長
松尾 美恵子	学習院女子大学名誉教授、品川歴史館専門委員
矢部 洋一	品川区立小山台小学校校長
安藤 正純	品川区文化スポーツ振興部長

(敬称略)

任期：令和元年8月1日～令和2年3月31日

(2) アドバイザー会議開催経過

第1回開催 令和元年8月7日（水）

議題：品川歴史館の現状と課題、リニューアルの方向性、諸室活用案等

第2回開催 令和元年11月15日（金）

議題：施設リニューアル計画（諸室計画）、展示リニューアル計画、
リニューアル後の活発な利活用のための取り組み等

第3回開催 令和2年2月7日（金）

議題：品川歴史館リニューアル基本計画（素案）